

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点 (ARC-iJAC)」
 2021 年度 国際共同研究 申請書〔研究設備・資源活用型〕

2021 年 2 月 28 日 提出

1. 研究課題名	
京都の活動写真製作及び興行における横田商会の意義 (英文標記: Significance of Yokota Einosuke in the modern Kyoto film industry)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
長谷 憲一郎(はせけんいちろう)	関西大学社会学部・非常勤講師／長谷映像事務所・映像監督
4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>日本映画草創期に、映画の導入から普及、発展まで最も寄与した一人の京都の実業家、横田永之助が、兄の万寿之助と共に最初期の映画会社である横田商会を立ち上げ、映画館がまだなかった時代に 10 を超える巡業隊を組み、地道に全国を回りながら映画興行を行ったこと、及び横田が映画の父、牧野省三を見出し、映画最初のスター、尾上松之助と 164 本もの映画を撮ったという功績は、よく知られている。しかし、京都をベースに明治末期から活動していた横田商会について、その実態や詳細は明らかになっていない。申請者は、横田商会の貴重な資料(紙媒体、写真、映画フィルム)の調査・発掘・研究を 2018 年から行っており、アートリサーチセンター資源活用型共同研究員に採択されたことにより、多くの遺品資料のデジタル化ができた。今年も継続して、さらに遺品資料のデジタル化を進め、その資料の調査・研究を進めていきたい。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターの広報などで利用・掲載することがあります)	
<p>アートリサーチセンターでデジタルデータ化を進めた横田永之助遺品資料の研究をさらに進め、データベース化を推進していきたい。得られた研究成果は、申請者の所属する学会(日本映像学会、日本映画学会)の 2020 年度の大会で口頭発表する。もしくは論文を学会誌に投稿する。</p>	
6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 著書 (2) 論文 (3) 研究発表等 (4) 主催したシンポジウム・研究会等 (5) その他研究活動(報道発表や講演会等) (6) 受賞学術賞 (7) 科学研究費助成事業 (8) 競争的資金等(科研費を除く) (9) その他 	